

交通事故傷害に対する可視総合光線療法

一般財団法人光線研究所
研究員 市川 博幸
所長 医学博士 黒田 一明

私達の日常生活には、交通事故により加害者や被害者になる危険性が潜んでいます。最近では高齢者ドライバーによる事故や運転業務の過労による事故などが話題になっています。

万が一加害者や被害者になると受傷治療や示談交渉など、全てが解決するまでに長い期間がかかることになり、この間肉体的疲労や精神的疲労も加わることになります。光線療法は受傷した身体を治すだけでなく、心身の疲労を緩解させる効果もあるので、病院治療と併用することでスムーズな回復が期待できます。

■高齢者社会における交通事故

交通事故総合分析センターの調べでは、平成 28 年の交通事故発生件数は約 50 万件で、交通事故死者数を年齢層別で見ると 65 歳以上の高齢者が 39.6%と最も多くなっています。

2025 年には 65 歳以上の高齢者が 3600 万人を超え、認知症の高齢者も 700 万人になると言われています。自動車の自動ブレーキや様々な安全機能が開発されていますが、やはり健康な身体能力を維持することが、交通事故防止という観点からもますます大切になります。

■可視総合光線療法

光線療法は、事故で受けた傷害の痛みを緩和すると同時に裂傷や骨折、頸椎などの損傷に対して熱と光の作用で、腫れた筋肉に柔軟性を持たせ、血流をスムーズにすることで、細胞の修復を早めます。傷害を受けた身体は炎症反応により患部に血液を集め組織の修復をはかります。光線照射をすると一時的に炎症作用が促進され痛みが強くなるがありますが、照射を続けることで身体が光線に慣れて徐々に痛みが緩和されていきます。後遺症が残っている場合も光線療法の深部温熱作用が硬結している組織に作用し、光化学作用が免疫機能を高めることにより身体を回復機序に向かわせます。

また、光線療法をすることで精神的疲労を和らげ、活力を得る効果も期待出来ます。このことにより事故による傷害の早期回復につなげます。

■交通事故傷害に対する光線治療法

◆受傷の痛みが強い場合

3001-5000番

3001-4008番

1000-3001番

◆受傷による痺れが強い場合

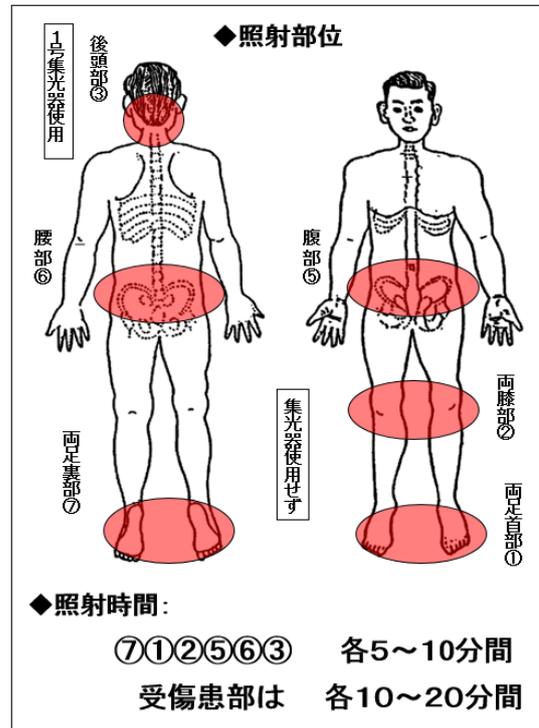
3002-5000番

3002-4008番

1000-3002番

◆照射時のポイント

- 治療初期は陽性反応に注意する
- 足の冷えが強い場合は温まるまで照射時間を増やす
- 痛む部位は集光器を使用して追加照射する



■治療例1 頸椎損傷 72歳 女性 東京都 153cm 59kg

◆症状の経過:

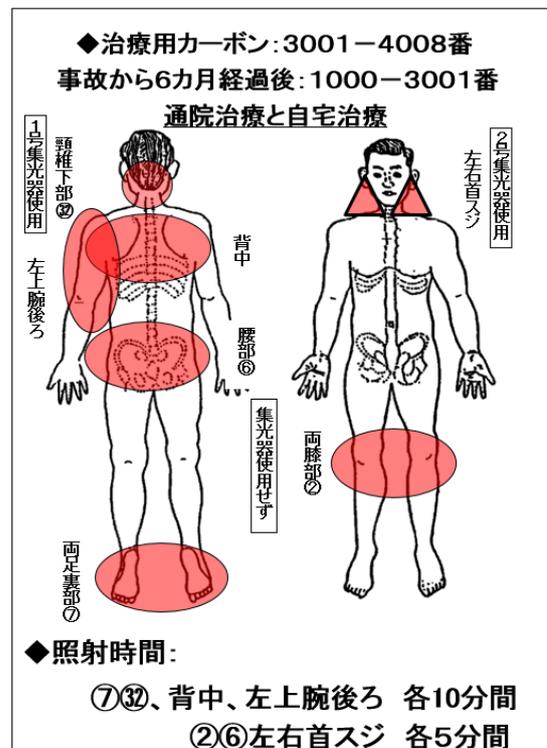
乗用車を運転中、車道に自転車が飛び出し急ブレーキを踏んで後続車に追突された。頸椎捻挫と診断され、3日後から頸の重だるさが増し、左肩から左上腕に激痛が走り動かせなくなった。

日常生活では家事や睡眠時に痛みが出て不眠になった。

再度病院検査で頸椎損傷の診断。

接骨院でも治療を始めたが症状は改善しなかった。

光線治療で頭痛や腰痛、眼精疲労を良くしたことを思い出し当所を受診した。



当光線研究所付属診療所での治療



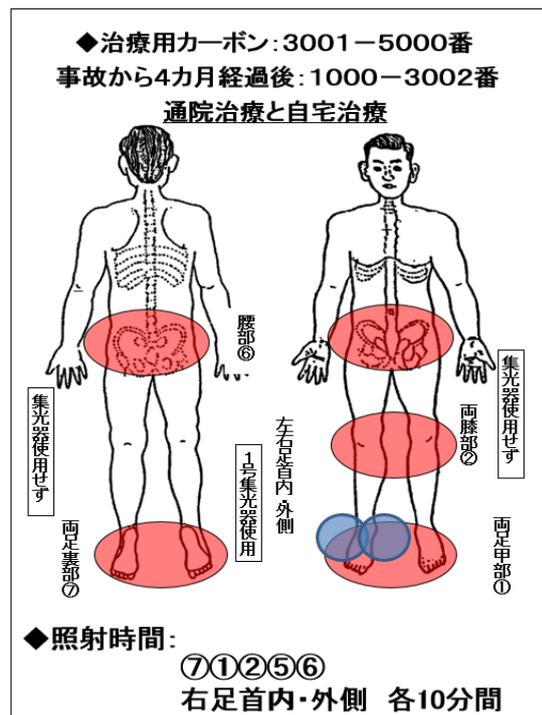
◆治療の経過：

陽性反応で痛みが強くなった。保険会社に光線治療併用を拒否され中断。病院と接骨院で治療を続けたが痛みは一進一退。事故から5カ月後に自宅に光線治療器を用意し治療を再開。事故から6カ月後、保険会社から何度も症状の改善確認の連絡があり精神的疲労が増加。治療用カーボンを変更し、事故8カ月後に頸、背中 of 重だるさと左腕痛はかなり軽減。10カ月後に治療の打ち切りを通知されたが光線治療はその後も続け、事故から一年経過時には痛みは完治し事故前と同じ生活が送れている。

■治療例2 右足首骨折・裂傷 61歳 女性 神奈川県 160cm 56kg

◆症状の経過：

バイク運転中に車と接触し、投げ出され足首の骨折と裂傷を負った。入院し裂傷部から出ていた骨を形成外科で治療してギプスで固定された。退院し通院でリハビリを行い4週間後にギプスが取れた。裂傷部の皮膚のつれ感や足首の痺れが残り、裂傷部の植皮が必要と言われた。手術の回避を知人に相談したところ光線治療を紹介され早速当附属診療所を受診した。



当光線研究所付属診療所での治療



◆治療の経過：

足首のつれ感が和らいだのでリハビリと併用して自宅で光線治療を開始。植皮手術の回避のために毎日3回光線治療を続け、先生から「皮膚がつき始めているから手術の必要はないかもしれない」と言われた。手術が回避となり光線治療をサボるようになった。その後職場復帰したが、裂傷部の皮膚のつれ感、足首の痺れは変化なかった。事故から4カ月後に再度当所を受診し光線治療を再開。事故から6カ月後には足首の痺れが軽くなり、2時間程の歩行が可能になった。事故8カ月後には事故を忘れるくらい仕事出来るようになった。事故1年後には皮膚のつれ感は消え、足首の痺れもほぼ回復した。

■治療例3 頸部痛・下肢の痺れ 45歳 女性 神奈川県 156cm 48kg

◆症状の経過：

首都高速を運転中に後続のトラックの居眠り運転で追突された。救急車で病院に運ばれ入院となった。頸の痛みと下肢の痺れで歩きづらく、病院でリハビリをしたが、痛みと痺れが残った状態で5日間の治療を終え退院した。その後は保険会社に勧められた病院でリハビリと接骨院治療を始めて少しずつ痛みと痺れが緩和したが仕事で正座ができず、筆を持つのも不自由になり困っていた。書道仲間から光線治療を紹介され早速当附属診療所を受診した。

◆治療用カーボン：3002-4008番

通院治療

1号集光器使用
頸椎下部②

2号集光器使用
左右首スジ

1号集光器使用
左右股関節④

集光器使用せず
腰背部③

集光器使用せず
腓腹筋部⑤ 両足裏部①

集光器使用せず
両膝部② 両足首部①

◆照射時間：
⑦①②④⑥③④③② 各10分間
左右首スジ 各5分間

当光線研究所付属診療所での治療



◆治療の経過：

けがとは別に慢性的な寝不足で身体の冷えも強かったが、初回の光線治療後は身体がとても温まり、当日の夜は熟睡できた。週3回の通院治療と病院のリハビリを併用した。治療2カ月後には下肢の痺れ、痛みがほとんど無くなり歩行は普通に戻った。頸の痛みは仕事で筆を使いすぎたり、寝不足が続くと症状が増すことがあったが治療開始4カ月後には痛みをほとんど感じなくなった。治療5カ月後には仕事で作品を書く姿勢がきれいに戻り、書道仲間からは笑顔が多くなったと言われるようになり、明るく生活が送れている。